

## 文化生活部

bunka@kumanichi.co.jp

TEL:096-361-3181 FAX:096-361-3290

## 清永本店 城下町の風情維持へ

熊本地震で被災した明治期の木造商家「清永本店」(熊本市中央区西唐人町)で、復旧工事が進んでいる。長く課題だった多額の復旧費確保にめどがたった。一帯は熊本城に近い古町地区で、町屋など歴史的建造物が並んでいたが、多くが被災の影響で姿を消した。清永本店の店主らは「城下町の風情を残したい」と話している。

清永本店の創業は18世紀半ば。建物は西南戦争で焼けたが1878年に再建。そのめんなどの乾物や日用品などを販売してきた。

店舗兼住宅の母屋(2階建て、延べ床面積約540平方

## 被災の商家 復旧始まる

熊本市・古町地区 費用確保にめど

蔵や蔵など四つの建物がある。8代目の清永幸男さん(78)ら家族3人が暮らし、昔ながらの味わいある景観をとどめてきた。熊本地震では、母屋の屋根が全体的に損壊し、壁も崩れた。雨漏りが激しく床も傷んだ。蔵も屋根や壁が損傷した。

だが、柱や梁の損傷は軽微で、清永さんは「慣れ親しんだ家。できることなら元通りにしたい」と可能性を模索。ただ、復旧には1億円超を要した。建物は文化財の指定を受けておらず、公的な財政支援制度の対象外だった。

このため、ほかの歴史的建造物の所有者や支援者の建築士らと協議会を発足。被災した未指定文化財の修復補助を求めて、県などに要望を重ねた。県は昨年2月、「被災文化財等復旧復興基金」を未指定文化財にも割り当てることを決めた。

清永さんらはこの基金とグループ補助金を活用。歴史的建造物の保護・保存に取り組み米国の財団の支援も受け、自己負担額は復旧費全体の2割強で抑えられる見通しとなった。現代工法で住宅を建て替える場合とおおむね同額で、復旧工事に踏み切った。

被災した建物の応急処置や片付けには延べ千人のボランティアが訪れたという。NPO法人熊本まちなみトラストは、建物復旧の支援金の寄付を募っている。清永さんは「みなさんの助けがなければ、あきらめていた」と感謝する。

母屋では屋根の復旧が進む。清永さんの妻佳子さん(72)は「のこぎりの音が聞こえると、心が弾む」とうれしそう。復旧完了の予定は来年9月で、国登録有形文化財になることを目指す。

工事は始まったものの不安は残る。建物の維持管理には費用がかかるためだ。被災の影響もあり、清永本店の売り上げは減っているという。長男泰弘さん(43)は「建物を生かして人を呼び込み、収益につなげたい」と対策を考えている。(中原功一朗)



母屋の復旧工事を見る清永幸男さん(左端)、泰弘さん(左から2人目)、佳子さん  
熊本市中央区の清永本店